

おやこフェスタ2013 in 海の中道 海浜公園

東区の幼稚園（20園） 結束で

『やさしい心の種プロジェクト』

発展途上国の子どもたちに

ポリオワクチンを…!!

「東区ようちえんフェスタ」実行委員長
貝塚幼稚園 園長 庄司 誠



コスモスが満開でした

東区（20園）が協力し参加している海の中道海浜公園主催「おやこフェスタ」、その中で同時開催している「東区ようちえんフェスタ」も今年度で5回目を迎えて2013年10月19日（土）コスモスが満開に咲き誇る海浜公園の広い広い芝生の上で心地よい時間を過ごしました。

東区の先生方が運営する幼稚園ブースでは沢山の子どもたちが遊びに来てくれて折り紙やお絵かき、ゲーム遊びやバルーン体験、盛りだくさんの内容で先生方が多くの子ども連れの皆様と触れ合い幼稚園の先生の明るさややさしさを肌で感じて頂きました。



第1回	2010年…145,800個	ワクチン 81名分
第2回	2011年…206,100個	ワクチン115名分
第3回	2012年…450,117個	ワクチン235名分
第4回	2013年…630,315個	ワクチン315名分

年々増えています！



東区ようちえんフェスタのメイン事業として継続して行っているのは、「やさしい心の種プロジェクト」です。このプロジェクトは子どもたちがまだ小さいうちに「やさしい心の種を植え付けておこう」という考えのもと、東区の幼稚園（子ども、保護者、先生）で1年を通じてペットボトルキャップを回収し、発展途上国の子どもたちにワクチンを届ける活動です。

年に一度各園が集めたキャップはこの東区ようちえんフェスタを通じて、NPO法人「世界の子どもにワクチンを」日本委員会の九州窓口であるイオン九州様に園児の代表から「寄贈」しています。



みんなありがとう

ペットボトルキャップ個数はご覧の通り、年々収集数が増え、東区の幼稚園（子ども、保護者、先生）に確実に浸透し、最近はその子どもたちが園に大切に持っていき姿を見た近所の方々が各幼稚園に渡しに来て下さるなど幼稚園だけにとどまらず各園の地域にも広がりをみせています。

これまでに届けたワクチンの本数は746名分、幼少期の子どもたちの心の中にはそれ以上の「やさしい種」が植えられ大きくなるに連れその意味を知り、物を思いやる、命を思いやる、やさしい心を思い出し行動してくれること信じています。

本事業に対して、ご協力いただいていますイオン九州様には毎年、各園そして東区園長会に感謝状を頂き、本事業に共感しご協賛いただく企業様も年々増え私どもの活動を応援して頂いております。

その他にも、本事業に対しましては、昨年度より福岡市市議会議員、東区振興議員であります森英鷹先生より絶大なご賛同を得て、福岡市環境局の全面協力を頂いており、子どもたちへの環境教育も合わせて行うことができ大変感謝しているところです。

その他にも東区20園の特色ある教育を各園自慢の掲示板で知って頂いたり、園長先生方の私立幼稚園の説明コーナーやステージイベントを通じて、東区各園の特色や福岡市私立幼稚園の補助金制度や預かり保育を知って頂くなど、福岡市の幼稚園を少しでも理解して頂くよう毎年思案を凝らしています。



皆様のご協力
ありがとうございます



ひょうきの
おともだちが
へりますように
さかい はやと

おかげさまで
イベントも大盛況
一日たっぷり
楽しみました



このおやこフェスタには、「東区ようちえんブース」以外にも「ソフトバンクホークス、アビスパ福岡の体験コーナー」、「ディスクゴルフ体験」、「紙ヒコキ教室」、「昔あそび体験」、「森のクラフト教室」、「食育紹介ブース」、「動物ふれあいコーナー」、「環境共生の森どんぐり教室」、「挿し芽ポット作り」、また特別ゲストとしてNHK「いないいないばあ」でおなじみのワンワンとあそぼうショーなど盛りだくさんの内容で子ども連れのご家族が1日ゆっくり楽しめ、園内来場者数も毎年約6,000名を超えるイベントになっています。

私も東区園長会は、この機会を通じて、東区20園の結束で公的な補助を貰っている団体としての社会的責任を果たしているのではないかと感じております。

ワンワンも登場!!



平成25年度

教職員

レクレーション大会が開催



小林振興委員長



柿迫会長



No.	プログラム	内容	出場者
1	開会式	—	全員
2	心も体も目を覚ませ アイスブレイキング	◆準備体操 エアロビクス・リズム体操	全員
3	ウォーミングアップ	◆二人組徒手ゲームなど	全員
4	出会いに感謝！ 仲間を探せ！ 小グループゲーム	◆グループを作り活動する グループ内で協力して考える	全員
5	最後は…	◆全体徒手ゲーム	全員
6	閉会式	—	全員

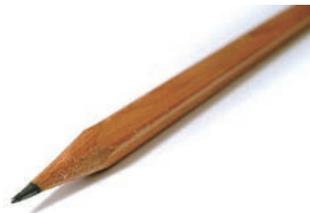
去る平成26年1月8日（水）14：00～16：30、福岡市九電記念体育館にて、教職員レクリエーション大会が開催されました。参加園88園、教職員参加者604名が、新年を迎え心も体もリフレッシュできるようとプログラムが用意されました。「久しぶりに思いっきり体を動かしました！」「今年の抱負はダイエットです！」「ごどもたちに負けない体力をつけます。三学期も頑張ります！」など新年から笑顔いっぱい元気な声が聞かれた楽しい大会になりました。

この大会を企画・開催してくださった振興委員会の方々や参加されたすべての方々感謝申し上げます。

心も体も リフレッシュ!!



公開保育を参観して



1月23日(木)
貝塚幼稚園にて



淡水幼稚園
教諭 林 大輔

貝塚幼稚園での公開保育に参加させていただき、「食の大切さ」「食の重要性」というものを再認識させられました。幼稚園に入ります一番に感じたことは、保護者や子どもたちに対する食に関する情報の多さでした。学年ごとに年間の食育カリキュラムを立ててあったり、野菜の栄養について細かく表記されていたりと、幼稚園に行くだけで食についての知識が身近に感じられ、且つ普段の生活では学べないことを学べることについては深く感銘を受けました。

今回見せていただいた活動は「マヨネーズ作り」でした。ただ作るというのではなく、ねらいとして、①野菜の栄養・効能を知る。②作ってくれている人への感謝の気持ちをもつ。とありました。子どもたちの苦手な野菜を事前に用意し、栄養、効能がわかりやすく説明されており、子どもたちもよく聞いて理解していたようです。そのためマヨネーズ作りも更に楽しみながら活動できていました。嫌いな野菜の知識を得て、マヨネーズを自分で作る事で「食べてみよう」と子どもたちの中にプラスの意欲が出る事を強く感じました。

私の園では、子ども達自身で畑を耕し、種を植え、育てて食べる活動をしています。今回参加させていただき、今後、育てた野菜についての栄養や効能を子どもたちに伝える事が出来れば、さらに身のある活動になるのではないかと考えさせられました。



貝塚幼稚園で感じた事、学んだ事を早速日々の保育に生かしていきたいと思えます。このような貴重な経験をさせてくださった貝塚幼稚園の園長先生、ならびに職員の方、ありがとうございました。



12月13日(金)
汀幼稚園にて



聖心ウルスラ幼稚園
教諭 城本 咲子

今回、汀幼稚園で行われたクリスマス会を拝見させて頂きました。木の温もりを感じられる聖堂には、可愛らしいリース作品やイエス様ご誕生の馬小屋が飾られ、クリスマスを迎えられていました。温かい雰囲気の中、衣装に身を包んだ子ども達による降誕劇。年長・年中さんが一人ひとり、自分の役を堂々と演じている姿が印象的でした。終盤には、人形の腹話術や先生方によるハンドベル演奏が子ども達にプレゼントされ、見ている私も温かい気持ちとなりました。

客観的に見せて頂いたことで、子ども達が与えられる感動・喜びを改めて実感し、更に聖歌を参加者と共に賛美することで、空気の一体感を感じられました。また、子どもや保護者の目線で物事をとらえる事も大切なのだと、気付かされました。

クリスマスを通して、誕生の喜びを知っている汀幼稚園の子ども達。同じように世界中の子ども達も、愛を分かち合い、自分自身も愛の中で誕生してきたことを知ってほしい、と感じました。

このような機会を与えてくださってありがとうございました。



12月16日(月)
茶山幼稚園にて



西福岡幼稚園
教諭 増本 未来

今回、じっくりと茶山幼稚園の公開保育を見せていただきありがとうございました。保育が始まる活動がクラス毎に違い、子ども達が興味を引くことが出来るような、工夫された導入をされていて活動を見ているところからも引き込まれとても面白かったです。その中でも、印象に残っているのは、年少クラスでのトラブルの解決力、年中クラスでの子ども主体の手遊び、年長クラスでの文字遊びからの展開はとても勉強になりました。子ども一人一人が楽しんで、且つ落ち着いて園生活を送ることが出来る環境作りの工夫が様々なところで見ることが出来ました。先生方の声掛けもとても丁寧で子どもにも伝わり、友達同志の会話の中にも垣間見ることもできました。忙しい時期にこのような機会をいただき、たくさん勉強になりました。これからの保育の中に十分、活かしていきたいと思えます。





にしてつストアカップ
第30回福岡市私立幼稚園

サッカー 選手権大会



参加園

- あすなる幼稚園(2)
- 飯倉幼稚園(2)
- さつき幼稚園(5)
- 城南幼稚園(3)
- 茶山幼稚園(1)
- 福岡幼稚園(2)
- 福岡文化幼稚園(3)
- 星の原幼稚園(2)
- まつばら幼稚園(3)
- 紅葉幼稚園(4)
- 油山幼稚園(5)
- けご幼稚園(7)
- 自由ヶ丘幼稚園(3)
- 高取幼稚園(1)
- 長丘幼稚園(2)
- 福岡いずみ幼稚園(3)
- 別府団地幼稚園(3)
- 松崎幼稚園(3)
- 美和台幼稚園(1)

※ () 内は参加チーム数、園名はあいうえお順

主催：福岡市私立幼稚園サッカー連盟 共催：福岡市サッカー協会
 後援：福岡県サッカー協会、福岡市、福岡市教育委員会、西日本新聞、テレビ西日本
 特別協賛：西鉄ストア 協賛：明治
 協力：アビスパ福岡、大阪フォトサービス、モルテン、フォトクリエイト



チャンピオンシップリーグ表彰結果

- 優勝 メープルリーブスチーム (紅葉幼稚園)
- 準優勝 けごAチーム (けご幼稚園)
- 3位 油山カメラアーズイエローチーム (油山幼稚園)



福岡市私立幼稚園サッカー選手権大会が平成26年1月25日(土)に博多の森競技場において行われました。当日は寒い天候の中、市内から19園54チーム、約712名のちびっこサッカーアスリートが参加し、盛大な開催となりました。

新人戦の大会より約半年が過ぎ、こども達はさらに成長し今大会では随所に好プレーが見られ、熱気あふれる大歓声が沸き起こっていました。

今年の6月に開催されるW杯ブラジル大会で日本代表の勇姿にたくさん刺激を受け、今大会参加者の子どもの達の中から将来の日本代表が出現し、世界で活躍することも大いに期待できるでしょう。

大会結果は、左記の通りです。



優勝チーム メープルリーブスチーム

おめでとう!

Fight !



学校評価をどのように幼稚園へ活用しているか」をテーマとして、西村哲子先生が教育を変える動きの中で、勢いのある学校づくりに向かったのかについて現場での取り組みを以下の4つの柱で説明されました。

1. はじめての校長職、
中学校長として(H12・H13)

まず、校長としての目標を「保護者や地域住民から期待される学校となること、地域の中にある本校が、私学等にはないよさでもって勝負できる学校にする。」とし、これまでの学校の閉鎖的体質をうちやぶって、内部を開き、より生徒や教職員の姿がみえるように、透明性の拡大を図っていった。準備として学校運営についての具体的な方針を打ち出し、それを基にリーフレットを作成、H13年度に「学校運営説明会」でスタートし、年度

「学校評価を活用して、勢いのある幼稚園に…」



講師：北九州放課後児童アドバイザー
 (子ども家庭局子ども家庭部
 子育て支援課)
西村 哲子氏
 日時：平成25(2013)年11月7日(金)
 15:30~17:00
 場所：私立幼稚園教育センター
 出席：40園 46名

末の「学校運営実施状況報告会」で振り返りを行った。

2. はじめての小学校校長として

(H14~H20)

異校種交流人事が始まり、小学校が地域に開放され始めた。学校開放日を一日の全部の時間とし、保護者の仕事の都合に合わせて学校へ訪れることが可能になった。学校はリーフレットの説明を行い、ホームページを教頭・校長で担当し、毎日更新した。学校が変わり始めた時期であった。

3. 文科省学校評価指定校の

小学校長として(H17~H20)

文部科学省第三者評価施行調査が行われ、学校が開かれるに当たって保護者からのアンケート内容に課題が生じてきた。そこで、学校評価はPDCAサイクルを回すことではなく、「学校の水準を高め、学校力を強くする」ことに目的があり、PDCAサイクルはそのための手段であることを確認した。結果として学校評価が学校を元気にするためのツールであり、子どもたちにとってよい学校にするための指標となるとの意識が校内に高まってきた。

4. 過去3校の応用編をめざす

小学校長として(H21~H23)

リーフレットをポスターとして活用した。内容は学校運営の理念を、めざす学校像・児童像・教師像・地域との関係にすべてリンクした。そのことで指導の重点と位置づけ、評価項目へつなぐことができた。また、結果はすべて公表した。

学校評価委員の選定は、役職で選ぶのではなく、客観的に見れて、バランスよく園へ知恵

「幼稚園における実践的防災知識対策について」

講師：防災システム研究所
山村 武彦氏
 日時：平成26(2014)年2月17日(月)
 15:30~17:00
 場所：私立幼稚園教育センター
 出席：48園 54名



◀昨年3月、役員東北被災地視察
 名取市 関上の被災後の街並み

を授けてくれる人、気付きを与えてくれる人を推薦してもらうことが重要である。

まとめとして、学校評価は「勢いある幼稚園になるためのツールであること」、「うまく活用していくこと」を示していただきました。

学校評価を実践していく上での一番大きな課題は、評価する目的が学校の水準を高め、学校力を強くすることを失い、学校運営に生かしていくことが困難になることが考えられます。今回の学校評価作成の過程を学ぶことで、幼稚園のためにどのように実践として生かしていけるのか大きな示唆が与えられました。

(※広報委員)

あの東日本大震災からちょうど3年が過ぎました。私幼だよりも数回、現地からの報告をしましたが、復興が遅れているところも多く心が痛みます。

山村先生が言われたように、私たちが生きている日本列島では約6年に1度は死者1000人を超える、約9年に1度は1,000人の死者を超える超巨大地震に襲われています。実は、もうすでに次の大規模地震のカウントダウンが始まっているという恐ろしい話です。また、最近の異常気象時には過去にも起きたことのない想像を絶する災害が起こっています。

多くの幼児を預かる幼稚園として、「以前はこうだった」ととらわれない防災心理を組み込んだ安全・行動マニュアルを策定する必要があります。フレームワークの防災・危機管理からフットワーク重視のネットワーク作りも必要です。子どもたちをどうやって守りきるか対策を考えましょう。

『いのちの笛』

○普及運動本部
 [FAX] 0467-87-0618
 [電話] 0467-87-4012



(送料・税込) 1コ ¥1,200 ※重さ：20g (ホイッスルのみ)
 音量：118~120デシベル
 聞こえる範囲：陸上800m
 水中15m
 (50コ以上)
 1コ ¥960

命の笛はストームホイッスルと呼ばれ、群衆、騒音、爆発音などの中でも人が一番聞きとりやすいと言われる周波数3,150ヘルツに合わせて調律されています。また、どんな気候、天候でも同じように機能が発揮できるようになっているのが特徴です。(水に浸けても音が出ます)

2月8・9日に開催

にしたんぼの森

×
木育キャラバン
であそぼう！



2月8日(土)・9日(日)、アクロス福岡において西日本短期大学保育フェスタVol.1「にしたんぼの森×木育キャラバンであそぼう！」を開催致しました。今回は、昨年度(2012年7月)に開催して大盛況だった木育キャラバンに加え、本学保育学科2年生

のゼミ活動や研究の成果(人形劇・歌の発表、手作りおもちゃの展示など)を発表させて頂きました。2年生は自分たちが積み重ねてきたことを発表し、新たな学びがあったようです。4月から現場に出ていく学生たちに、多くの皆様から温かい激励を賜りましたこと、心から感謝申し上げます。

また、福岡で2度目の開催となる木育キャラバンは、今回も多くの方にお楽しみ頂けました。まだまだ耳なじみのない「木育」は、森林大国である日本の木材を見直そうと、「木とふれあい、木に学び、木と生きる」とを目的として2004年に北海道で生まれた言葉です。子どもたちから木を身近に使っていくことを通じて、人と木や森のかかわりを主体的に考えられる豊かな心を育てることを目指しています。当日は東京おもちゃ美術館から、シンプルだけれど精巧な木のおもちゃが約300点やって来ました。親子で



ご来場
ありがとう
ございました

編集後記

今期の「私幼だより」はいかがでしたでしょうか？

年間2回の発行において、広報委員でいろいろ話し合っただけでも多くの方に読んで頂けるように悪戦苦闘しながら…でも、委員みんなで楽しみながら取り組んでまいりました。数ある連盟行事の取材に始まり、記事の割り振りや校正等々、作業が多く大変でしたが、出来上がりの達成感の喜びはとても大きなものでした。原稿や写真の依頼を快く引き受けて頂いた先生方、本当にありがとうございました。

(広報委員長 有吉)

じっくりとおもちゃに向き合っておられる様子を拝見し、木育のファーストステップである「触れて感じる」ことを体感して頂けたのではないかと思っております。
木育キャラバンはご来場者の方はもちろん、そこに携わる全ての人が主役です。今回、スタッフとして参加した学生も、準備の段階から主体的に関わりました。その場にならない子どもたちの事を考えながら、環境を構成するということを体感することができたようです。このような経験を積み重ね、保育の質を高められる保育者に成長してほしいと願っております。

今度も福岡市私立幼稚園連盟様よりご後援を頂き、2日間多くの皆様にご来場頂くことができましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(西日本短期大学保育学科 助教 渡邊 由恵)

昇地三郎先生を偲んで



しいのみ学園創設者で、100歳を超えてもなお元気で現役として活躍されていた昇地三郎先生(享年107歳)が平成25年11月27日に逝去され、同年12月15日に西鉄グランドホテルにて「しいのみ学園創設者昇地三郎先生を送る会」が行われました。

日本にまだ就学猶予ということしかなかった時代、わが子と同じように苦しんでいる子どもと親の為に、南区井尻に日本で初めての障がい児施設を開設されました。「子どもはわが家の宝」という先生の固い決意から財産を投げ打っての事業でした。「科学には限界があるが親の愛情には限界はない」という先生の信念は多くの親に勇気を与えました。

ペスタロッチ賞をはじめ多くの賞を受賞されましたが、中国や韓国の障がい児教育の発展にも寄与されました。そのため、90歳を過ぎてから中国語や韓国語を勉強されていたのも驚かされるばかりでした。

3歳児教育学会も設立され、まだまだ元気な先生のご指導を受けたかったと残念であります。長年のご尽力、先生のご功績を偲び、ここに謹んで哀悼の意を捧げます。

。小さきは小さきままに 折れたるは折れたるままに コスモスの花咲く。

(能古小の校庭に立つ歌碑より)
(※広報委員)